

HS ニュースレター

夏季号の内容

HS研究会原点回帰・天草視察ツアー

佐藤一雄氏講演「年利回り7%をゆうゆう達成」

会員の報告「銀座ミツバチ見学会報告」

近況報告、奥住・宮尾：書評「花街異空間の都市史」二木

HS研究会原点回帰・天草視察ツアー

天草に対する思いは、当初からの会員には感慨深いものがあり、また当時のことを知らない会員にとっては、天草の歴史や栄枯盛衰を知るよい機会ということで、6月25日（金）から27日（日）までハートストック研究会天草視察ツアーが実施されました。

ただし、この時期は九州地方は集中豪雨がよくあり、今回も雨と曇りで、快晴は三日目にほんの少しあった程度でした。福岡から天草エアラインで現地入りする予定だった何人かの会員は、天候トラブルで飛行機が欠航し、結局参加を断念するなど残念なこともありましたが、総勢約20名で元気に天草巡りをしました。

一日目は、アレグリアガーデンズ天草ホテルで、天草市役所の財務部長や経済部長、観光協会の部長、さらに地元の会員の中井さんから天草の経済状況や観光客の推移などについて話をうかがいました。その後の懇親会で、天草大王を食べ

ましたが、あっさりして歯ごたえがあり、食べやすく、非常に美味しかったです。名古屋コーチンや比内地鶏に比べ、東京などでは知名度がまだ低く、今後の営業活動が期待されます。

二日目はバスツアーで、午前の「天草キリシタン物語コース」では、大江天主堂、崎津天主堂、天草コレジヨ館などの名所を巡り、午後は「潮風とイルカと太陽の宝島コース」を巡り、荒波のなかでイルカにも遭遇できました。夕食の田中畜産の和牛ステーキ食べ放題コースは最高で、肉質が非常に柔らかく絶品でした。

三日目は、レンタカーで下天草を巡り、牛深地区では、今年地価公示の下落率が全国で二番目と四番目の土地を視察しました。さらにもっとも古い石の祇園橋である眼鏡橋や本丸からの眺望が素晴らしい富岡城址を見学しました。

天草は素晴らしい景色や美味しい食べ物があるので、観光客を増やすなどの努力によって、活気を取り戻すことが十分可能と感じられる訪問でした。――幹事・飯窪記



上：ホテルのロビーに全員集合
中：セミナーでの中井さんの話
下：セミナー後の懇親会の様子

ハートストック研究会とは

「ハートストック研究会」は、モノのストックだけでなくハート(心)のストックを豊かにするにはどうしたらいいかを追求する人たちの集まりで、誰でも入会できます。

東京や地方さらには世界各国の生活や仕事の問題を、土地や住宅といったモノのストックのあり方から、人の考え方や気持ちといったハートのストックのあり方まで議論して自らの心を豊かにすることを目的としています。

佐藤一雄氏講演「年利回り7%をゆうゆう達成」

HS研究会の6月定例会は、6月8日(火)に佐藤一雄氏を講師にお招きして開催されました。テーマは、「年利回り7%を達成した『ゆうゆう倶楽部』：不動産特定共同事業法とは何か」というものでした。

今年4月、佐藤氏が代表取締役のSATAS(サタシンテグレット)が運用するプティック型不動産投資商品「ゆうゆう倶楽部第一号商品」が約2年の投資期間を終えてクローズしましたが、その内容、仕組み、さらには苦勞話について場を

和ませる独特の語り口調でお話しいただきました。

やはり、情報開示を徹底して行い、入居中の中古マンションを安く購入し、賃貸借が終了したらリフォームしてエンドに売却する、というスキームを確実に実行されたことにより、投資年利回り7%を達成されたとのことでした。

今回の参加者は20名(うち新規参加者が2名)ほどで、活発な質疑応答も行われ、大変有意義な定例会でした。

ハートストック研究会会員の報告

銀座ミツバチ見学会報告 飯窪光隆(HS研究会幹事)

7月17日(土)に、ハートストック研究会の夏季特別イベントとして、NPO法人銀座ミツバチプロジェクト(銀バチ)が行っている養蜂所を見学してきました。銀座でミツバチ?と思われるかもしれませんが、銀バチが2006年から銀座3丁目の紙パルプ会館の屋上で養蜂事業を実行しているのです。

そもそも今回の見学会は、会員の田中祥司さんのお兄さん(田中淳夫さん)が養蜂事業を始めたところ、マスコミなどで取り上げられて話題になっていたのです。そこで田中さんをお願いして、この興味深い事業を実際にハートストック研究会でも見学させていただくことになったのです。

参加メンバーは総勢11名で、午前11時半より防蜂ネットを被り見学開始しました。飼育しているのは、西洋ミツバチと日本ミツバチの二種類で、西側の温かい方に西洋ミツバチが、東側の比較的涼しい方に日本ミツバチが飼育されていました。

西洋ミツバチは日本ミツバチよりも一回り大きく、動きも活発なようでした。ちなみに、ミツバチは「家畜」に該当し、女王蜂が容易に分蜂しないように羽をカットし、コントロールしているそうです。

お土産にユリノキ・モチノキの蜂蜜をいただきましたが、非常に上品な甘さでした。そして、見学の後は近くの串揚げ屋「銀座磯むら」で昼食会とし、ビールと串揚げで意見交換をし、約1時間後に解散しました。

「銀座でハチミツ」は一般常識を覆すような発想がなかったら誕生しなかったかもしれません。これから多様化するビジネスにおいては常識に捕らわれない発想をしていくことが大事で、これが出来るか否かが勝負の分かれ目になるような気がします。そんな発想をした銀バチの方々に拍手です。田中さん、銀バチの皆さん、ありがとうございました。

会員の近況報告

「日本のバブルは『他山の石』(奥住金衛)

中国では今、日本の80年代の後半の資産バブルの研究が盛んである。昨年末の中央政府の財政と金融による景気刺激策によって中国経済はV字型の回復を成し遂げたが、同時に不動産バブルも発生させた。不動産融資に対する引き締め強化で、大都市の住宅価格は調整局面に入ったが、2～3級都市や商業用の不動産には依然として過剰流動性、内需振興のための金融緩和と銀行融資の急拡大、これらは当時の日本の状況に酷似している。中国が日本のバブル崩壊から学んだ教訓は資産バブルに依存する経済成長の危うさである。中央政府は技術投資によって産業競争力を高めるための構造改革を推し進める決断をしたように思える。中国の都市化率はまだ45%ほどであり、東京オリンピックや大阪万博の開催された日本の70年代の高度成長期に当たり、バブル崩壊で低成長入りした80年代とは異なるとの認識があるからである。また市場経済を導入したとはいえ、統制型のシステムであり、内需型経済への転換にも自信を見せる。日本の轍を踏まずに済むかもしれないが、遮る壁もまた厚いのが現実である。

「米国・電子書籍事情」(宮尾尊弘)

例年のように、今年も5月から7月までロサンゼルスに滞在したが、昨年までと大きく違ったのは、電子書籍が爆発的に普及していることであった。アマゾンの「キンドル」を始め数種類の電子書籍端末が広まっていたことに加えて、新たにアップルの「アイパッド」が発売され、誰もがこぞって電子書籍に飛びついたのが今年の特徴であった。日本でも「アイパッド」が発売されて話題になったようであるが、実際にそれを使って電子書籍を購入して利用している人は、まだまだ少ないようである。それに対して、米国ではもともと書籍や雑誌や新聞の電子版を購入して、自分のパソコンで読む習慣が定着しつつあったため、新しい端末がその動きを加速して、今やアマゾンでは電子書籍の売れ行きが紙の書籍を上回るほどになっている。またカリフォルニアでは、印刷や配布の費用を節約するために、公立学校の教科書はすべて電子書籍にする計画が進んでおり、そのためにすべての生徒に電子書籍端末を無料で配布するとのことである。日本では、いまだに議論や検討の段階のようであるが、米国では便利なものはどんどん試してみるという「プラグマティズム」が健在である。

書評・加藤政洋著『花街異空間の都市史』(二木憲一)

花街(ハナマチではなくカガイが正しい読み方)と遊郭の区別は漠然としていました。街としての遊郭には興味を持っていたのですが、本書によっていろいろと分かりました。著者は流通科学大学の助教授で、れっきとした、と強調するのはおかしいのですが、学術書です。江戸から東京に変わる時点で大名屋敷が茶畑に変わったのは知っていましたが、江戸から明治へのまちづくりで賑わいを作り出すために、遊郭や花街が、大名屋敷跡に造られたという、まったく想像もしなかった、「異空間の都市史」です。

今年大阪に行ったときに友人が「飛田の街」を見せてくれました。法治国家の日本にこんなところがあって許されるのかと思いました。黒岩重吾の世界です。花街と遊郭の差が分かり、まちづくりに積極的に利用されているのが分かりました。

山口瞳の「血族」や吉行淳之介の「原色の街」に遊郭はでできますし、さらにその昔は「花柳小説」と見下されていた時代もありますが、本書は目から鱗です。お勧めです。

HS ニュースレター

年4回発行
ハートストック研究会
発行人・宮尾尊弘

住宅や土地といったモノのストックだけでなく、人の考え方や気持ちといったハート(心)のストックを豊かにするための研究会のブログ：
<http://hstock.blog90.fc2.com/>

ハートストック研究会
2010年度事務局
幹事：飯窪光隆
会計：田淵千代子
顧問：二木憲一